

耐震診断後における青森競輪場施設の今後の対応について

施設名	これまでの対応・今後の対応
<p>本場 メインスタンド棟</p>	<p><b>これまでの対応</b> 平成 26 年度に耐震診断実施、3 階縦方向で「耐震性に問題あり」と判定、耐震補強工事实施を決定。 平成 27 年度に設計業務を委託。</p> <p><b>今後の対応</b> 平成 28 年 11 月～平成 29 年 3 月に耐震補強工事を実施。</p>
<p>北側スタンド棟</p>	<p><b>これまでの対応</b> 平成 27 年度に耐震診断実施、2 階鉄骨構造部で「耐震性に問題あり」と判定。 現在の施設の使用頻度等を踏まえ、耐震補強工事以外の選択肢について検討することとした。</p> <p><b>今後の対応</b> 耐震診断測定値が、基準指標値 0.6 に対し、横方向 0.15、縦方向 0.14 で、耐震性能が最低水準（震度 6 強程度の地震の震動及び衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性が高い）と評価されたことを踏まえ、<u>当面の間、お客様の立入を禁止することとした。</u> （H28.6.2 より立入禁止。1 階投票所も使用しない。）</p>
<p>ドリームスタンド棟 （渡り廊下含む）</p> <p>温泉利用者の休憩所または記者室として使用しているA棟と、招待者席があるB棟を梁と屋根でつなげた建物</p>	<p><b>これまでの対応</b> 平成 27 年度に耐震診断実施、2 階鉄骨構造部及び、選手管理棟とつながる渡り廊下で「耐震性に問題あり」と判定。 現在の施設の使用頻度等を踏まえ、耐震補強工事以外の選択肢について検討することとした。</p> <p><b>今後の対応</b> 今回の診断で「耐震性に問題あり」とされたのはA棟のみで、B棟は耐震性に問題がないことが判明。 A棟の測定値は、基準指標値 0.6 に対し、横方向 0.43、縦方向 0.31 で、耐震性能が低水準と評価された。 （震度 6 強程度の地震の震動及び衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性がある） 平成 27 年度における温泉利用者が延べ 2,055 人だったこと、また、みちのく記念競輪開催時における記者室確保の観点から、<u>今後も引き続き使用することとし、A棟については、耐震補強工事の方向で検討を進めている。</u> また、選手管理棟との行き来に使用している渡り廊下については、<u>全面改修のほか、行き来の運用変更の可否について検討継続中。</u> （例示：ドリームスタンド棟と選手管理棟を隔てる壁を通り抜けることができるように改修するとともに、雨よけのためのテントを設置する、など）</p>

※その他、選手管理棟、北側ゲート棟、北西ゲート棟、西側店舗棟、東側店舗棟、東側トイレ棟については、「耐震性に問題なし」と判定